B細胞性リンパ腫の病型分類のためのCD5抗体の比較

○杉山　佳代，林田　雅彦，小橋陽一郎（天理よろづ相談所医学研究所），津田　勝代
岸森　千幸，山本　智恵美，松尾　収二（天理よろづ相談所病院）

CD5はB細胞性リンパ腫の低悪性度群の病型分類に利用されており，主に慢性Bリンパ性白血病（B-CLL）とマントル細胞リンパ腫（MCL）で発現する．特にMCLは，濾胞性リンパ腫およびMALT型リンパ腫との鑑別が困難であり，CD5とCD10が病型分類に有用である．そこで今回，B-CLLおよびMCLでのCD5の発現強度と頻度を調べるとともに，CD5抗体の感度の比較を細胞株と実際の症例を用いて行い，使用抗体による差を検討した．

【対象および方法】

CD5の発現状況は，1991～2004年のB-CLL 20例，MCL 5例について，B細胞での陽性率20%以上を陽性として求めた．なお，CD5検索はFITC標識抗体（DK23）を用いた．

CD5抗体の感度比較は，CD5陽性細胞株を対象に，9種の標識抗体（FITC:4種，PE:5種）について抗体希釈試験にて行った．また，4症例を用いて汎Bマーカーとの2重染色を行い，反応性を比較した．なお，B細胞に占める腫瘍細胞は全て97%以上であった．

【結果】

CD5の検出頻度は，B-CLL症例で18/20例（90%），MCL症例で5/5例（100%）と高値であったが，発現強度は低いものから高いものまで様々であった．

抗体希釈試験による比較では，PEは感度の高い傾向を認めたが，大きくばらつきS/N比で約8倍の差があった．CD5発現量が様々な4症例では，発現量の高い2症例の陽性率は93.0～96.0%，27.7～92.5%と全て20%以上であった．発現量の低い症例では3.0～20.6%で，20%を越えたのはPEの1種のみであった．部分発現の症例では1.7～20.8%の陽性率でFITCの1種類と前述のPEが高値を示した．ただし，PE抗体の方が蛍光強度は高く，陽性細胞の認識が容易であった．

【まとめ】

CD5抗体の感度は，大きな差を認めた．B細胞リンパ腫の病型分類のためのCD5抗体は，高い感度が望まれるため，抗体の選択には十分な注意が必要と考えられた．

連絡先 0743-63-5611（8776）